

たばやま 講談会

参加無料

東京水源林経営に取り組んだ男

お ぎ き が く どう

尾崎琴堂伝

講談師 田辺鶴遊 師匠

令和6年

10月12日(土)

開場：午後1時00分

開演：午後1時30分

丹波山村役場
2階 多目的ホール

山梨県北都留郡
丹波山村 2450

撮影地：三重河原

講談師 田辺鶴遊 (たなべかくゆう) 師匠

【略歴】

昭和53年 名古屋生まれの静岡育ち

昭和55年：芸能活動を始める

昭和62年：「田辺一鶴」に師事

昭和63年：上野本牧亭で講談

「チビ鶴」として初高座。

平成14年：講談協会に所属し「駿之介」拝名。

平成20年：二ツ目昇進

平成22年：「一鶴」死去「宝井琴梅」門下へ

亭号を田辺から宝井へ。

平成27年：真打昇進。

宝井駿之介改め「田辺鶴遊」

【講談・読み物】

徳川家康、清水次郎長、巴川物語、若き日の信長、
三方ヶ原軍記、三波春夫やオリジナル講談など。

たばやま 講談会

東京水源林経営に取り組んだ男

尾崎弔堂伝

「尾崎行雄水源踏査記念碑」の説明

明治四十二年（一九〇九年）五月、当時の東京市長尾崎行雄は、多摩川の荒廃した水源地帯を踏査し、これを買収して水源のかん養を自ら行うことを決断、給水一〇〇年の計を樹立しました。

この記念碑は、昭和三十八年（一九六三年）、この尾崎市長の功績に対し東京都民の感謝の意を永遠に伝えるために、市長が踏査されたこの地に設置されたものです。

明治の中期から後期にかけて、東京の飲料水のほとんどを供給していた玉川上水の水源である多摩川では、上流部の森林が荒廃していたため、濁水や濁水が頻繁に発生し、憂うべき状況となっていました。

このため、東京市長尾崎行雄は、水源地であるこの地を五日間にわたって踏査し、「東京市民の給水に責務を負っている東京市が、水源林の経営を行うべきである」と決断されたのです。

その後、これを契機として、荒廃した水源地帯を買収するとともに、植栽や崩壊地の復旧事業など積極的な施策を講じた結果、水道水源林として今日みられるような見事な森林が形成されることとなったのです。

東京都水道局



- 主催者挨拶：丹波山村長 木下喜人
- 講談：田辺鶴遊
- 閉会挨拶：炭焼三太郎（NPO日本エコクラブ）
- 司会：幸地正憲（都市教育研究所 所長）

撮影地：笠取山小さな分水嶺